

編集後記

今月号の Personal View の中で、相澤俊峰先生が論文評価の難しさについて書かれている。われわれ臨床家や研究者は少しでも業績を上げようと、よりインパクトファクター（IF）の高い英文誌への論文掲載を目指し日々努力している。しかしこの IF 自体は論文の価値そのものを表しているわけではなく、雑誌の影響に大きく依存するとのことである。そのため現在では、論文の価値や研究者個人の業績を評価するため、IF だけではなく、h-index（h 指数）、i10-index、論文のダウンロード数、取得した競争的資金の額など、様々な評価基準が提唱されている。しかしどれをとっても利点・欠点がある。

近年、オープンアクセス形式の雑誌が増えており、われわれもその恩恵にあずかっている。まずオープンアクセス誌は論文採用から公開までの時間が早い。また、雑誌を購入しなくても、図書館に足を運ばなくてもよい。以前であれば、どうしても入手できない論文は、著者にエメール（これは既に死語？）で依頼状を送り論文別刷を郵送してもらうということもあった。現在ではインターネットに key word を打ちこむだけで関連論文リストが出来上がり、その中にオープンジャーナルがあれば簡単に論文を入手できる。自ずとダウンロード回数は多くなり、そのジャーナルの論文引用回数が上がるということになる。

論文を早く出したいという研究者の心理？をつく、ハゲタカジャーナル（捕食雑誌）の類もあり、毎日のように投稿依頼のメールが届く。まともな査読もなく論文を採用し、その著者から高額な論文掲載料を要求する。研究者にとっては簡単にアクセプトされること

から論文数を増やせる利点があるかもしれないが、不名誉な業績となる危険もはらんでいる。研究機関にとっては研究費を掲載料としてハゲタカ出版社にだまし取られることになる。

このためまず伝統あるピアレビュー誌を選んで投稿する訳である。しかしこのコロナ禍で、どの雑誌も投稿数が伸び、そのハードルはより高くなっている。一方、出版社は多くの投稿に対応するため新たな姉妹誌を作り、そちらへの transfer を勧めてくる。そこには大抵、期限内の transfer を了承すれば、再査読は不要などとの文言がある。姉妹誌であれば、投稿形式を変える必要もなく、査読も既に終了しているため、こちらとしては一石二鳥である。しかし新しい姉妹誌にはまだ IF はなく、また論文掲載料が必要な場合も多い。少しハゲタカジャーナルにやられたような気にもなる。最近是有名雑誌にそっくりな偽のウェブサイトを作成し、そこに投稿させるクローンジャーナルという新手の商売？も出現しているようである。

さて今月号の特集は高原政利先生ご立案による『肘関節鏡視下手術の基本テクニック』である。私も肘関節鏡下手術をすることがあるが、肘関節腔は狭く、周囲に神経・血管があることからなかなか困難である。本特集号を読んで、現在様々な疾患に関節鏡が応用されていること、また各手技には多くのコツやピットフォールがあることを改めて理解できた。これから肘関節鏡を始めようとする初学者だけではなく、肘関節専門の先生方にも役立つ充実した内容になっていると思われる。

（石橋恭之）

「整形・災害外科」第 65 巻 第 4 号（4 月号） 2022 年 4 月 1 日発行（毎月 1 回 1 日発行） 定価 2,860 円（本体 2,600 円＋税 10%） 年間購読料金 定価 44,660 円（本体 40,600 円＋税 10%） 〔年間 13 冊（臨時増刊号、増大号を含む）の誌代〕 〔年間予約購読者に限り送料無料〕	発行所 金原出版株式会社 発行者 福村直樹 〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-14 TEL 03 (3811) 7165〔編集室直通〕 TEL 03 (3811) 7184〔営業部直通〕 FAX 03 (3813) 0288 www.kanehara-shuppan.co.jp 振替口座 00130-1-191269 印刷所 三報社印刷株式会社 広告申込先 日本医学広告社 TEL 03 (5226) 2791
--	---

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY** <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（電話 03-5244-5088、FAX 03-5244-5089、e-mail: info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。